



一般社団法人
富山県作業療法士会
ニ ュ ー ス

令和2年度 No.1 第133号 令和2年6月26日

発行 一般社団法人
富山県作業療法士会
会長 齋 藤 洋 平
印刷 (株) チ ュ ー エ ツ

富山県作業療法士会ホームページ <http://toyama-ot.org/>

富山県作業療法士会会員数：643人

第19回富山県作業療法学会を終えて

第19回富山県作業療法学会 学会長 高田 尚美（市立砺波総合病院）

開催日：令和2年2月23日(日)

開催場所：砺波市文化会館

新元号になって初めての学会ということで張り切って会議を重ねてきましたが、開催の一ヶ月前頃より新型コロナウイルスが流行し開催が危ぶまれる状況となりました。各種団体がイベントを中止するべきか否か検討されるなか、当学会は相談を行い、万全の感染対策を講じて開催する事を決定しました。当日は玄関で健康チェック・アルコール消毒をして貰い、マスクを装着しての入場としました。参加者の方にはご迷惑をおかけしましたが皆様の協力が得られ無事に学会を終える事が出来ました。参加者の減少も危惧されましたが153名と多くの方に参加いただき、



概ね好評だった様に思われます。

今回の学会テーマは「自律の再考」としました。特別講演は千葉県立保健医療大学の安部能成先生を迎え「自律」についての基礎となる講演をいただきました。その後パネルディスカッションでは各分野でご活躍の講師の先生方にお話をさせていただきました。「自律」の主体は本人にあり、私たちはそれぞれの分野で体・精神・生活を整え、自己決定出来るように支援しなければなりません。自律はOTの得意分野といわれています。多くの経験を積みいかなる状況でも自律支援出来るようになりたいものです。他に、技術講座や演題発表



もあり盛りだくさんの企画でしたので参加者の方も大変だったと思いますが、記憶に残る学会だったように思われます。

本学会を開催するにあたりご協力頂いた皆様、ご参加下さった皆様、有り難うございました。



(富山新聞)

富山県作業療法学会ポスター発表を終えて

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 山田 英里菜

今回、令和2年2月23日に砺波市文化会館で開催された第19回富山県作業療法士学会に参加し、「注意機能へのアプローチが談話障害の改善に繋がった一事例」をテーマにポスター発表させて頂きました。学会での発表経験が少なかったため基礎を押さえるところからのスタートでしたが、これを機に多くの知識を得ることができ、同じ県内で奮闘されている作業療法士の方々と直接コミュニケーションを図れたことが大変刺激となりました。

まず発表準備をする際、どのように説明をすることで限られた時間の中でのまとまった説明ができるのか、どのような情報を加えることで根拠をより明確に示すことができるのか、工夫点を考えることで自分の中でも症例に対する整理ができ、より良い治療に向けた改善点を見つめ直すきっかけとなりました。「談話障害」や「ワーキングメモリ」といった発表に関連する用語についても、書籍や文献などを読み掘り下げることによって用語知識を深め、関連する文献からは、幾つもの新たな考え・治療方法を得ることが出来ました。特に自身の発表テーマが、「談話障害」といったやや共通理解の得られにくい用語であったため、症状の特徴や要因など基盤から勉強する必要性がありました。「話の回りくどさ」「冗長性」「基本語の欠落」はそれぞれ何が起因となっているのか、それぞれの症状は「注意」「遂行」「記憶」といった高次

脳機能障害の中で、どのカテゴリーに深く関連しているのか、症例の症状はどの談話障害の特徴と一致しているのか、細かく順を追って考えていくことで、症例に対する理解を深めることができたと感じています。また、準備期間は勿論、実際の発表場面では質疑応答や座長からのコメント等を頂き、不足していた部分や今後の課題点について気づくことが出来ました。患者様の「生活」を考えながら訓練を行っていく視点や方法など様々なご意見を頂戴し、大変参考となりました。また、自身の発表以外にも他の参加者の発表を聞くことで、自分の発表との違いは何か、レイアウト、話し方、より良い治療に繋がる考え方など、客観的な方向から捉えて考えることが出来ました。発表を通じて県内の病院や施設で取り組まれている活動について情報共有を図ることができる場であることも、地域で開催される学会ならではの貴重な機会であると感じています。

これからは、今回の参加によって得た多くの学びを無駄にしないためにも、学会テーマである「それぞれの歩みを支援するため」の作業療法を提供できるように努めていきたいと思っています。そのためにも日々、患者様のそれぞれの生活を考え、問題点と生活の結びつきをより深く考察しながら治療を行えるように励んでいきたいと感じています。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と 富山県作業療法士会の対応

富山県作業療法士会 会長 齋藤 洋平（南砺市民病院）

平素より、富山県作業療法士会へのご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

また、この度の世界的な感染症問題におきまして、それぞれ、大変なご苦労と不安のなかで、職務や生活をお過ごしのこととお察しいたします。

このようななか、これまで当然として行ってきたことを、今後、どのように再開、継続していくかが問われ始めています。

富山県作業療法士会では、2月に富山県作業療法学会を、徹底した感染対策のもと開催しました。この様子は、メディアに多く取り上げられ、また他士会からも注目され、見本となるものでした。ご尽力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

また、今年度11月の東海北陸学会は、日本作業療法士協会の全国初の事業を取り入れ、開催に向けて準備を進めて来ました。しかし、4月末時点で、「人口10万人当たりの感染者数」上位に、複数の東海北陸県があり、関係各所および東海北陸ブロック7士会の代表者にて協議を行いました。そのなかで、「学会開催が、富山県士会にとって必ずプラスになるので、ぜひ、1年延期でお願いしたい」と提案し、2021年12月に延期となりました。みなさんには、引き続き、ご迷惑とご心配をお掛けしますが、ぜひ、ご理解の程、よろしくお願ひします。

さらに、6月の臨床実習指導者研修会も、日本作業療法士協会は、従来の方法での研修会は開催しない旨の連絡を受けました。富山県士会・梶委員長を中心に協議を行いました。全国の作業療法士会初のWEBで行うこととなりました。これは、全国的な模範となる事業ではないかと思っています。

介護ロボットニーズシーズ連携協調協議会は、ほとんどの県が、昨年度までで活動を終了していますが、富山県では、これまでの良好な関係を継続し、ロボットの製品化に向け、協力していただける企業への働きかけを続けています。我々が目指すのは、「高齢者の自律を促すロボット」であり、まさにこのSTAY HOMEの中、作業療法士がこれまでにない形での貢献だと思っています。

その他、各種研修会や総会、会議等の開催が危ぶまれていましたが、富山県士会でも、WEB方式による会議を採用し、今後は、多数が長時間使用できる環境を整えて行きたいと考えています。

このように、富山県作業療法士会は、様々な事業をいかにして続けるか、また会員を含めたみなさんの生活に、どう貢献できるかを考えています。今後も日々変わる状況のなか、様々なご意見を参考に、取り組んで行きたいと思っています。

日本作業療法士協会HP 一般向け特設ページ

http://www.jaot.or.jp/jaot_for_covid19

厚生労働省HP 情報・対策ページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

2019年度富山県介護ロボット ニーズ・シーズ連携協調協議会活動報告

医療法人社団重仁 佐々木病院 渡邊 雅行

一般社団法人日本作業療法士協会が厚生労働省委託事業「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会全国設置・運営業務」を受託し、富山県作業療法士会でも2018年度に引き続き、齋藤県士会長を委員長とする富山県ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会（以下、富山県協議会）として活動したので、その成果について報告する。

富山県協議会のプロジェクト・コーディネーターは、富山大学の中林美奈子准教授と国立研究開発法人産業技術総合研究所の梶谷勇主任研究員で、このお二人のご指導のもとで県内の作業療法士4名がニーズ側委員を担い、シーズ委員には県デザインセンター、富山大学工学系および芸術文化学系の教授2名、NECネッツエスアイ(株)にご協力を仰ぐことができた。

今回、富山県協議会は、「高齢者の外出意欲を引き出すおしゃれ支援ロボット」を提案した。これは、前年度の「高齢者のアクティビティを引き出す『外出準備サポートロボット』」を更に具体化したものである。アイデアを出すにあたっては、南砺市において在宅介護支援に従事する専門職計7名に、「よそ行きの格好に着替える」支援のあり方について、約2時間のグループインタビューを行った。その調査結果から、介護職員が捉える障壁として、以下の5つのことが明らかになった。それらは、①限られた訪問時間の中でおしゃれ支援に充てられる時間は少ない。②介護職員としての基礎・現任教育の中でおしゃれ支援に関する内容はほとんどなかった。③おしゃれ支援の中心技術は「対話」。経験の少ない職員ではうまく会話できないことがある。④すでに着替えてしまった後で、「着替え直してください」とはいえない。着替える前に指摘したい。⑤家族の理解・支援が得られないとうまくいかないことである。

協議会では計5回会議が開催されたが、ニーズ側およびシーズ側委員でホットな意見交換をし、気がつけば会議の終了が23時を回ることも多かった。私たちが導き出したのは、①服装のおかしさをロボット（機械）が認識するのは難しい。②介護職員を助ける情報の提供（会話や更衣技術のノウハウや自助具の情報など）は、データがあれば可能であるが、データを集める・作ることのほうが難しいという結論に達した。

おしゃれ支援ロボットの概要を下図に示したが、この富山県協議会の提案は、日本作業療法士協会会長からも「作業療法の視点が存分に生かされており、在宅高齢者のそのひとらしい社会参加を支援する提案」との好評を博し、齋藤会長が製品化を実現するための資金を富山県関係部署等を奔走している。

なお、介護ロボットに関心のある諸氏は、厚生労働省「介護ロボットの開発・普及の促進」(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>) をご覧いただきたい。

表 おしゃれ支援ロボットの概要

ロボットの概念図 	ロボットの機能 ①音声出力 *付加機能として、タッチパネル、音声入力 ②レコード機能（同じ服防止機能へ） ③チェック機能 （カレンダー、スケジュール、天候、気温など） ④お悩み解決機能、教えて機能、助けて機能 利用場面 高齢者の居宅（施設含む） 期待される導入効果 【高齢者】高齢者の外出意欲が高まる 【家族介護者】家族が主体的におしゃれ支援に参画する 【介護職員】おしゃれ支援実践力の向上 【地域全体】おしゃれ高齢者が闊歩する町の実現
---	---

「介護ロボット」を導入して感じること

特別養護老人ホーム つまま園 浜出 都

皆さんは「介護ロボット」と聞くと、どのようなイメージを抱きますか？

介護ロボットは福祉機器の一種です。介護現場は利用者と介護者が密接に関わることが多く、三密を避けることや、ソーシャルディスタンスを保つことが難しい場面が多くあります。そこで双方が安心してサービスを提供するための環境整備の一つとして、介護ロボット等の活用が有効なことがあります。

当施設は1年前に移乗支援型ロボット「HugL1」「愛移乗くん」「SASUKE」を導入しました。全体的な効果として、利用者の骨盤が前傾し、座位姿勢の改善が認められました。それにより食事時の食べこぼしや咽が減り、摂取量が増えました。排泄しやすい姿勢を保てるので、まとまった排尿がみられ、オムツが外れた方もいました。腹圧が掛かり、自力排便ができ、下剤が減った方もいました。特に効果を感じたのは、立位が保てる軽度の状態からHugを使用していた90代の女性の方です。その後、中等度の右片麻痺を発症されたのですが、使用を続けることで、連合反応を抑え片麻痺特有の骨盤の後傾や姿勢の崩れなく、ADLの維持を図ることができました。どの職員が行っても同水準のケアが提供できることが強みです。リハ職の個別訓練が十分行えない場合でも生活上でのリハビリが可能であることを感じました。

さらに、何をされるか分からず、不安を感じ大声が出てしまう認知症の方、介護抵抗がみられる方に使用することで、抵抗が大幅に減り、表情が

穏やかになることも経験しました。

最近では新たに見守り支援型ロボット「眠りスキャン」を部分的に導入しました。眠りスキャンはマットレスの下に敷くもので、マット上の動作を検知するだけでなく睡眠・覚醒状態の把握、呼吸・心拍を読み取ることができます。また得られたデータは記録として残るので、記録を検証し、ケア内容に活かしていくこともできます。眠りの質を客観的に見ることができるので、覚醒時に排泄介助を行うことや、何気なく行っていたポジショニングが効果的か検証することも可能です。

利用者さんの能力と介護現場のニーズをアセスメントし、適切な機器を選択し、介護現場で問題なく使用できているかをマネジメントするのはOTのスキルを活かせる分野だと感じています。しかし個々のマネジメント力が問われ、他職種との連携が難しく、導入してもうまく運用できないことも聞きます。

福祉機器を適切に使いこなすことができれば、職員のゆとりや安心を生み出し、それが利用者との会話や日常の関わり、観察などが増え、ケアの向上に繋がります。それにより、利用者の笑顔も増えます。人員が限られた介護現場でも、仕事の遣りがいを感じ、双方が笑顔で楽しく毎日を送れたらと思っています。「人」と「機器」をバランスよく融合させていくことが、今後求められる介護であり、それに微力ながらも関わっていきたいと日々感じています。

■ HugL1



従来型ホーム：1台
ユニット：2台



立位保持を補う
この状態でゆっくり移動できる

■ 愛移乗くん



ユニット：1台
ディサービス：2台



人力で抱えることなく、
トイレに乗り移りできる

■ SASUKE



従来型ホーム：1台



ベッドからリクライニング型
車椅子に乗り移り

富山県訪問リハビリテーション研究会の 成り立ちと現状について

訪問リハビリテーション推進委員会 鷺尾 智子（南砺市訪問看護ステーション）

訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）推進委員会は、PT・OT・ST士会からなる富山県訪問リハ研究会の活動を行っています。経緯は2010年に訪問リハ地域リーダー会議が東京で開催され、その際に各県の人材育成の先頭に立つリーダー達が集められ、各県で訪問リハの人材を育成する為の研修会を開催することとなりました。その後2013年に3協会共同で訪問リハ振興財団が設立され、毎年開催される地域リーダー会議にて、各県士会から推薦された3士会の代表者が、指導者として各県にて研修会を行う為の研修に参加しています。

訪問リハ振興財団の活動目的は、「訪問リハをはじめとする在宅ケアの質的・量的拡充を図り、病気や障がいがあっても生き活きとその人らしく安心して暮らせる社会を目指し、訪問リハ等在宅ケアの事業に従事する人材の育成や事業運営等の支援、調査研究、訪問リハ等在宅ケアの事業の運営を通して情報の提供及び制度改善等の政策提言を行うと共に、訪問リハ等在宅ケアの推進に努め、もって国民の健康と福祉の向上に寄与すること」です。また訪問リハ特区が認められ、特定の地域で訪問リハステーションを立ち上げ、運営を行っています。

富山県訪問リハ研究会の役員は現在PT 7名、OT 4名、ST 2名が在籍しています。活動内容は、訪問リハ振興財団の活動の一環として、各都道府県にて訪問リハビリテーション実務者研修会を行うことが主な内容です。県内では「在宅生活を考えるリハビリテーション研修会」として、夏と冬

の年2回開催しています。この研修会の目的は、訪問リハを実施する者の資質を一定レベルに保つこと、訪問リハ従事者数の充実を図ること、制度化に向けて実績を積むことです。またこの研修会に参加する事で、訪問リハ管理者養成研修（STEP 1～3）に参加でき、訪問リハ実践に必要な知識（制度や技術を含む）、自立支援型介護、地域包括ケアシステム内での訪問療法士の役割、人材育成など、多彩な内容で多角的に捉える視点が養われます。

今年度は感染症流行に伴い、毎年5月に開催される地域リーダー会議は動画配信となり、研修会の開催も未定ですが、富山県の訪問リハをはじめとする在宅支援が行える療法士を目指して、一緒に活動しませんか？現在訪問リハに携わっている方、今後携わりたい方、退院支援として訪問リハを知っておきたい方等、興味のある方はご連絡ください。その人がその人らしく、生活の場でOTとして関りたい方、ぜひ一緒に盛り上げていきましょう。



昨年度の研修会の様子(前列右から2人目が講師をされた呼吸器専門のPT碓井さんです)

県士会におけるICT活用のすゝめ

県士会広報部HP担当 塚田 大紀（富山城南温泉病院）

日本でもICT（情報通信技術）、ひらたく言えば「通信技術を使って、人とインターネット、人と人とが繋がる技術のこと」ですが、この言葉が定着し始め、皆さんも日々、HPやSNS等でその利便性を享受しておられると思います。県士会においても、時代に即した運用をということで、県士会HPをはじめとするICTの活用を推進し、新たな取り組みを検討・実行し始めているところです。この度、ぜひ、会員の皆さんにもご理解、ご協力いただきたいということで、お知らせする機会をいただきました。よろしくお願いいたします。

今春、協会の各部・委員会より示された日本作業療法士協会の2020年度事業計画の重点項目において、ICTに関わることといえば、昨年からの学術誌『作業療法』のJ-Stageへの電子版掲載、オンラインの査読システムの導入の準備、一部委員会の恒常的業務のメールやWEB会議での実施、現職者研修のVOD（視聴者が観たい時に様々な映像コンテンツを視聴することができるサービス）コンテンツ作成と運用、認定・専門作業療法士研修等におけるe-Learningコンテンツの拡大、福祉用具相談システムの支援・IT機器レンタル事業普及の促進、協会HPのスマートフォン対応、会員ページ構成・アクセスの利便性と閲覧者の関心に応じた情報の提供に向けた大規模な刷新を行うことなどが、大きなところでは打ち出されていました。

それでは、富山県士会においてはと申しますと、数年前より、県士会HPのスマートフォン対応や研修会参加申し込みのグーグルフォーム（Googleの提供しているアンケートを作成・分析できるツール）の利用、理事会レベルではML（メーリン

グリスト：複数の人へのメール配信システム）を使用した災害連絡システムの試用などの試みを行い、ICTの推進を徐々に進めておりました。その後、昨年末に石川県で開催された東海北陸リーダー養成研修会では「どうすれば会員の皆さんが県士会活動に関心を持ち、主体的に参加してもらえるか（次世代リーダーの育成に向けて）」という課題の中、富山県士会メンバーからは、SNSの活用やサテライト研修、WEB会議等の提案をさせてもらったことも契機となり、県士会HPの常時SSL化（通信の暗号化を行うことにより、セキュリティの向上と高速化、サイトの信頼性向上を図る）を手始めに、会員のMLシステムの構築等の検討も始まり、更なるICTの推進を進めていたところ、今春に入って突如として訪れた新型コロナウイルスの流行により、状況は一変。富山県学会は何とか行われたものの、東海北陸学会開催に暗雲が立ち込め、3密を防ぐため集まれないという事態の中で、運営会議のWEB会議での開催が実現し、その後の東海北陸の各県士会とのWEB会議により、結局、東海北陸作業療法学会は1年延期となってしまいましたが、今回のことが、既存の考え方をガラリと変えるきっかけとなり、ICTによる連携が深まってきた感があります。この広報誌が皆さんの手元に渡っている今現在も、まだまだウィルスの流行と行動制限が続き、苦しい立場となっている方も多くおられるものと思いますが、今の現状を一日一日乗り越えながら、一方では「災い転じて福となす」といった前向き思考で、この機会に自分の置かれた環境を再確認しながら、より良い方向へと進んでいけるよう皆で協力して行ければ良いと思います。

今年度の事業としては、既に皆さんにお伝えしております通り、グーグルグループを使った会員MLシステムの構築を始めているところで、早ければ今秋の災害訓練時での試用を考えております。そのまま上手く運用の見通しが立てば、今後、皆さんへの研修会案内をはじめとする有益な情報の伝達を、今までの紙ベースのものから、ICTを利用した方法へと移行し、より皆さんに身近で利便性の高いものとなれればと考えています。その他、総会・研修会等のインターネットを利用した実施やHP等による動画の配信、WEB会議を使った理事会や委員会の実施等を検討または実際に行って

おります。

最後に、今の時代の潮流は、ICTを中心とした社会の中で、作業療法士の周りにおいても多方面にわたりグローバル化していく時代となっています。その流れに乗り遅れないようにするとともに、作業療法士らしさを忘れず、私も微力ながら県士会のお役に立てるよう、これからも退かず進んで行きたいと思います。

また、県士会HPや会員MLなどについてご意見やご質問などありましたら、お気軽にお尋ねいただければと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ICT活用 のすゝめ

進まざる者は
必ず退き
退かざる者は
必ず進む

福沢諭吉
「出典『学問のすゝめ』より」

メーリングリストの運用開始＝メールアドレス登録のお願い＝

現在、富山県作業療法士会ML（メーリングリスト）への登録を皆様をお願いしております。今後、皆様の登録が進めば、研修会案内や緊急時の連絡等の役立つ情報を迅速・簡便に送れるようになると考えておりますので、このQRコード（又はメールアドレス）より奮って登録申請を宜しくお願いいたします。

メールアドレス <https://forms.gle/Jzbm1DhqWkUKxLzR7>

県士会広報部HP担当 塚田大紀



市立砺波総合病院は、昭和23年に開設され、地域の皆様や多くの医療機関の方のご支援により砺波医療圏約13万人の中核病院に育てて頂きました。病床数は、一般病棟461床、精神病棟44床、感染病棟4床、結核病床5床を併せ持っており、地域の中核病院として、災害拠点病院、へき地中核病院、地域救命センター、地域周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、臨床研修病院などの指定を受け政策医療の面からも職員一丸となって、地域の医療を守っています。

当院のリハビリテーションセンターでは、理学療法士19名、作業療法士11名、言語聴覚士4名、呼吸療法士3名の、計37名が在籍しており、OTでの主な疾患は、脳卒中、脊髄損傷、手・指などの腱断裂・切断、骨折・外傷、がん等が多く、昨年からは精神科でのリハビリも開始しています。介入として、集中治療室での超急性期に始まり、急性期回復期まで、様々な状況下において患者様に総合的なリハビリ医療を提供しています。当院に平成26年8月に新設された地域包括ケア病棟では在宅、社会復帰に向けてチーム内で話し合い、生活に即した機能回

復訓練/日常生活動作訓練に介入しています。必要な場合は実際に自宅へ出向き、家屋改造のアドバイスや必要な福祉用具の提供も行っています。退院や転院が近づくと、患者様、その御家族様から不安の声が聞かれることも多い為、不安を少しでも軽減し、生活リズムを整え、出来るADLを獲得できるよう病棟看護師と連携しています。

また、休日リハビリも実施しており発症間もない方や、術後の方、早期のリハビリが必要になる方に、積極的に参加しています。上記だけではなく、院内デイ・訪問リハビリテーションにもOTが介入し、患者様に合わせた介入、在宅リハビリテーションを提供しています。OT間のミーティングでは、作業療法を行う上での目標を作成し、目標達成に向かって患者様と関わり、日頃学習してきたことを報告する為に、毎週勉強会を開催し、互いに切磋琢磨しています。

今後も、患者様にリハビリを提供し、時には患者様から元気を頂きながら、地域医療を守ることを目的に、更に精進してまいります。今後ともよろしくお願いします。



会員リレーコラム



駅南あずさ病院

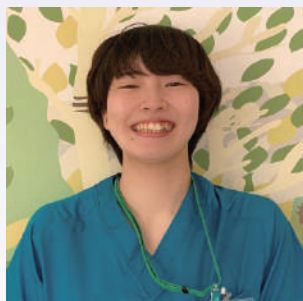
藤永 賢人

県士会の皆様こんにちは。高岡市にある駅南あずさ病院に勤務している藤永です。富山協立病院の石井さんからバトンを受け継ぎ、担当させていただきましたことになりました。石井さんとは富山医療福祉専門学校で共に学んだ同級生にあたります。私は入学当初「作業療法士になる！」という気持ちは薄く、ただ授業を受けて漠然と過ごす日々でした。3年生になる前に1日実習があり、作業療法士の先輩方の働く姿を間近で見学させていただきました。それを機に気持ちを改め、真面目？な学生となり、なんとか学校を卒業して、現在は臨床5年目となりました。

当院に配属となり、やがて2年が経とうとしています。当院の精神科作業療法の対象は10代～90代と幅広く、高齢化に伴って個別に身体リハビリを必要とする方が増えています。趣味嗜好が異なり、求められることも多種多様。昨年

は地域移行支援事業で一事例に関わる機会がありました。長期入院の方で、退院するまでには様々な課題がありましたが、笑顔で退院していく姿を見て、やりがいを感じる事が出来ました。笑顔と言え、趣味で続けている楽器でも同じような体験をしています。中学生の頃から打楽器を続けており、マリンバやドラムセットなどの楽器を作業療法の場で取り入れたこともあります。休日には仲間と「TheVividBeaters」というグループで演奏活動をしています。新型コロナウイルスの影響で今は活動出来ていませんが、活動再開時には多くの人を笑顔にすることが出来たらと思います。仕事でも趣味でも、誰かを笑顔に出来る存在になりたいです。

最後に次のバトンを、実習で大変お世話になった先生のうちの一人、厚生連高岡病院の河井恵介さんに渡したいと思います。



富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

遠藤 若菜

県士会会員の皆様こんにちは。済生会高岡病院の近藤さんからバトンを受け継ぎ、今回のコラムを担当させていただきましたこととなりました。富山県リハビリテーション病院・こども支援センターの遠藤若菜です。富山医療福祉専門学校を卒業し、

作業療法士となって今年で3年目となりました。

私はこども療法課の方に所属しており、発達に偏りのある子ども達に対して、感覚統合理論に基づいて、遊びや様々な作業活動を利用しながら発達を促しています。私が子ども達と関わる上で常に意識していることとして「Therapy should be FUN (楽しくなければセラピーではない)」があります。子ども達に「楽しい!」、「できた!」、「チャレンジしてみたい!」と感じてもらえるような作業療法を展開できるように模索する毎日を送っています。

話は変わりますが、今、新型コロナウイルスの流行により生活に混乱が生じています。外出自粛等により当たり前のようにできていた作業が制限されている方も多いのではないのでしょうか。私自身も参加予定にしていた研修会や講演会も中止になる等、休日も自宅で過ごすことが多くなりました。そのため、買い溜めしておいた専門書を読む等、自宅での時間が増えたからこそ自己研鑽のために有効に使っていきたくと考えています。また、こういった状況だからこそ新しいことを始める良い機会だと思い、写経を始めました。場所も取らず、手軽にできることに加えて、じっくり何かに取り組むよい機会になっていると感じます。一文字、一文字書き写していく単純な作業ではありますが、単純であるがゆえに没頭しやすく、気がつけば時間が経つのも忘れてしまいます。手書きの機会が減っている中でじっくりと字を書く作業は新鮮な気がします。機会があれば、お寺の写経体験にも行ってみたいと思います。

最後に、次のリレーコラムのバトンを南富山中川病院の阪本彩佳さんへ渡したいと思います。

■ 会員異動等

種類	氏名	旧所属	新(現)所属	備考
異動	熊南 清夏	にながわ光風苑	堀川南光風苑きときと	
異動	島 武史	老人保健施設あかり苑	あおい病院	
異動	田村友里恵	介護老人保健施設チューリップ苑	デイサービスきたえるーむ富山長江	
異動	中田 希菜	ケアポート庄川	自宅	
異動	根塚 恵	自宅	富山労災病院	
異動	古澤 学	富山市民病院	富山市立まちなか病院	
異動	藤澤 周平	高岡市きずなこども発達支援センター	砺波総合病院	
異動	松本 大輔	富山医療福祉専門学校	さくら脳とこころの訪問看護ステーション	
異動	松本 敦史	藤木病院	介護老人保健施設ケアホーム陽風の里	
異動	宮城 由佳	通所リハビリテーションとよたシャキシャキ	富山協立病院	
異動	横山 哲之	富山リハビリテーション医療福祉大学校	富山労災病院	
異動	渡邊 雅行	富山労災病院	佐々木病院	
異動	小笠原 瞳	老人保健施設みしまの苑一穂	合同会社 結 結リハビリ訪問看護ステーション	旧姓 光地
退会	小川 拓真	富山ろうさい病院		
退会	唐津 学	入善訪問看護ステーション		
退会	作田 裕子	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター		
退会	佐藤 厚視	富山県立中央病院		
退会	島津 一輝	富山協立病院		
退会	角 竜臣	常願寺病院		
退会	田中 舞	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター		
退会	牧 織衣	自宅		
退会	元起美由紀	厚生連滑川病院		
退会	山中 真希	自宅		
退会	横川 千尋	南砺市民病院		



令和元年度 第10回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和2年1月20日（月） 19時より

出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、丸本、橋爪、
吉波、藤井、森、渡邊、大平、吉村、
松本、能登（記録）

欠席：作田、小倉

＜報告事項＞

1. 各種事業より
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
・助成金10,000円、事務局員について了承
 - 1-2. 富山県医療推進協議会
・12月5日 齋藤会長出席
 - 1-3. 砺波地域リハビリテーション会議
・12月11日 齋藤会長
2. 協会事業、三士会協議会等
 - 2-1. ロボット事業について
・12月5日 富山県協議会（最終）
・12月7日 富山大学看護学会学術大会（齋藤会長パネリスト、渡邊理事、野田氏 参加）
・1月12日 介護ロボットのニーズ・シーズの連携協調協議会 第4回推進委員会（東京・齋藤会長、渡邊理事 出席）
・1月23日 富山県介護ロボットフォーラム（齋藤会長・浜出 講演／野田 出席）
・2月8日、9日 最終報告会（齋藤会長、渡邊理事、野田氏 出席）
・2月10日 筑波大学レクリエーションロボットに関して、富山県メンバーへの意見聴取
 - 2-2. 東海北陸地区士会長会議 * 資料添付
 - 2-3. 協会誌5分間講読
・地域アドバイザー委員会に対応依頼
 - 2-4. 47委員会
・2月1日、2日 松岡副会長 出席
 - 2-5. 日本作業療法協会 診療報酬説明会
・3月22日(日)大阪会場 参加申込者：佐々木氏、衣笠氏 出席予定
・2月理事会にて、（1）疾患別リハビリテーション・精神科関連、（2）回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟関連、（3）その他の新規要望関連について、意見・課題解決に向けた具体的な提案を検討。
 - 2-6. 東海北陸リーダー研修会 * 報告書添付
 - 2-7. その他
・災害支援金について、OT協会よりお礼文。千葉県士会、長野県士会にて活用予定。
3. 各分会、委員会などより
 - 3-1. 運転委員会
・12月21日 研修会開催（75名参加）
・病院—指定校自動車学校の連携シートの試作予定
・運転と作業療法 士会協力者会議 およびアンケートについて、担当理事、委員長に対応依頼

3-2. 臨床実習指導者講習会

- ・1月14日 担当理事、委員長、講師にて事前会議
 - ・2月1日、2日 講習会開催（50名定員に対し、会員外、PT含む75名応募あり）
 - ・次年度の開催についてアンケート調査
- ### 3-3. 災害リハビリテーション委員会
- ・12月7日 協会研修会（吉波理事出席）
- ### 3-4. 普及指導部
- ・健康と長寿の祭典 3士会会議議事録あり
- ### 4. その他

- ・愛知県小西OTより、富山刑務所の高齢受刑者への指導事業（年1回）の引継ぎ依頼あり、受刑者病棟のある北陸病院・西尾氏に対応依頼。受託するかは現在未定で現場にて検討。
- ・高岡市地域リハビリテーション連絡協議会を今年度より長井氏より厚生連高岡、森氏へ変更。
- ・南砺市医師会事例検討会への派遣を南砺市訪問看護ステーションからマーシ園丹羽氏へ変更。
* 南砺市内の病院施設にて1年交代で対応希望あり。了承。
R3年度ふくの若葉病院、R4年度わらび学園、R5年度介護老人保健施設 城端うらら R6年度独立行政法人国立病院機構 北陸病院、R7年度介護老人保健施設 葵の園・なんと、R8年度公立南砺中央病院、R9年度南砺市民病院
- ・3月15日(日) 専門職協議会主催 1日研修予定
会場：ファボーレ
AMは介護予防教室予定 駐車場少ない場合、西リハ総合病院駐車場
- ・12月7日、8日 生涯教育制度推進担当者会議
かみいち総合病院・森氏参出席。バーコード管理への完全移行は未定

＜検討事項＞

1. 協会等事業について
 - 1-1. 重点活動項目と自己評価について
・3役にて評価シート記載し、理事会にて了承
2. その他
 - 2-1. R2年度事業予算案について
・2月理事会にて引き続き検討
東海北陸学会の扱い方（日当、交通費）に関して各部異なっているため、調整必要。
日当（1日：1,000円 半日：500円）を出す事業も明確化する必要がある。
例：普及指導部、地域ケア会議、発達部会、訪問リハ協議会、精神部会
・会費の未納についての取り扱いや判断に財務部難渋している。
改めて総務部、部同士で話し合いを実施予定（吉波氏参加）。
定款では3年経過すると退会となってしまうが、このことを阻止することが重要。
また昨今、退会届を出さず、自動的にそのまま退会となるケースが多いのではないかと。
- 3-2. 事務局について

- ・富山医専学科休止に伴う事務局移転について。
3 役提案として、富山医専で事務局をそのまま使用してもらい、人件費、管理費など、支払う案を検討。→この案だと物の管理は定時まで可能。印刷に関しては今までは紙代金のみ支払っていたが、機械代金も支払う必要性あり。パートの人件費必要。電話対応をどのようにするか不明。引き続き、会長、副会長、事務局長、吉波氏で検討。

令和元年度 第11回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和2年2月17日（月） 19時より

出席者：齋藤、松岡、桐山、島津、丸本、橋爪、
吉波、藤井、森、渡邊、能登、大平、
吉村、松本、小倉

欠席：作田

《報告事項》

1. 各種事業より
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
 - ・各地区行政への働きかけ継続
 - 1-2. 富山県地域リハビリテーション推進会議
 - ・2月17日 齋藤出席
 - 1-3. 高岡地区地域リハビリテーション会議
 - ・田邊氏より森氏へ
 - 1-4. 富山県医師会研修会
 - ・2月5日 高岡会場 齋藤、裏田氏 出席
2. 協会事業、三士会協議会等
 - 2-1. ロボット事業について
 - ・1月23日 富山県介護ロボットフォーラム（齋藤・浜出氏：講演／野田氏：参加のみ）
 - ・2月8日、9日 最終報告会（齋藤、渡邊理事、野田氏 出席） * 資料添付
 - ・2月10日 筑波大学グループ来県し、富山県協議会にレクリエーションロボットの意見聴取
 - 2-2. 47委員会
 - ・2月1日、2日 松岡副会長 出席
 - ・次年度予定：4月11日/12日、9月12日/13日、2月6日/7日
 - 2-3. 日本作業療法協会 診療報酬説明会
 - ・3月22日(日) 大阪会場 参加申込者：佐々木氏、衣笠氏 出席予定
 - ・（1）疾患別リハビリテーション・精神科関連、（2）回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟関連、（3）その他の新規要望関連について
 - 2-4. 地域リーダー会議（訪問リハ）
 - ・5月16日～17日 丸川病院 四十物（あいの）氏
 - 2-5. 富山県作業療法士連盟について
 - ・日本OT連盟より富山県責任者不在の連絡あり、渡邊理事責任者（自薦）として連絡
3. 各部会、委員会などより

- 3-1. 臨床実習指導者講習会
 - ・2月1日、2日 講習会開催（50名定員48名参加、75名応募。会員外、PT含む）
 - ・大きなトラブル無く終了。次年度以降の開催に向けたアンケート調査実施。
 - ・2月13日 次年度開催に向けた会議
 - ・協会アンケートおよび各県の開催状況 * 資料添付
- 3-2. 砺波学会について
 - ・1月22日 学会運営委員全体会開催。古川氏とのシステム改善に関する協議。
 - ・2月16日 事前申し込み締め切り
- 3-3. アクティビティー部会研修会
 - ・2月15日 開催済。富山テレビの取材あり（理事会後の連絡のため、会長了承で許可）
- 3-4. 認知症作業療法研修会
 - ・3月1日 県リハにて開催予定。まだ参加枠あり締切延長。

《検討事項》

1. 各部会、委員会などより
 - 1-1. 普及指導部からの事業提案および必要人数について
 - ・高校生体験会（2日間・OT20名）
 - ・まちなか（1日間・OT・10名）
 - ・健康と長寿の祭典（2日間・12名）
 - ・東海北陸学会（2日間・10名）
 - 2-2. 地域アドバイザー委員会より
 - ・事業案について検討し了承
 - 2-2. R2年度事業予算案について
 - ・修正が必要な部、委員会あり、再度、修正依頼
 - 2-3. 総会日程、内容について
 - ・6月13日、14日 開催予定

令和元年度 第12回理事会

場所：谷野呉山病院

日時：令和2年3月23日（月） 19時より

出席者：齋藤、島津、丸本、松岡、橋爪、大平、
吉波、渡邊、藤井、能登、

欠席：桐山、森、松本、吉村、作田、小倉

《報告事項》

1. 各種事業より
 - 1-1. 精神保健福祉実現会議
 - ・コロナウイルス拡大防止のため中止
2. 協会事業、三士会協議会等
 - 2-1. 刺し子製品の販売事業について
 - ・富山大学ホコケンを介して、カフェゴッコより店頭販売あり。
 - ・シルバーケア城南、羽根苑に確認後、アメリティ月岡を紹介し、県士会を通さず調整していただく。
 - 2-2. 協会事業について

介護保険対応! ベッド・車椅子・レンタル!

車椅子

➡ 480円より

ベッド

➡ 700円より

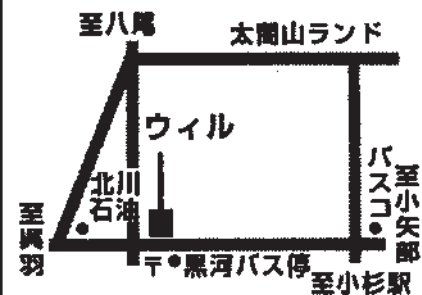
リースナブル



株式会社 **ウィル**

TEL (0766) **56-7099**

FAX 56-3395



- ・ 3月22日 診療報酬説明会および4月11日～12日の47委員会が中止。後日、資料配布予定
 - ・ その他の協会事業についても中止または延期
 - 2-3. ロボット事業について
 - ・ AMEDは応募せず、2月28日齋藤会長と富山大学の先生方と富山県関係の助成の話し合い。
 - 3. 各部会、委員会などより
 - 3-1. 臨床実習指導者講習会
 - ・ 6月6日、7日 開催予定 80名定員で募集中
 - 3-2. 県学会
 - ・ 2月23日 砺波学会は嚴重な感染対策のもと開催。メディアにも多く取り上げられた。
 - 3-3. 認知症作業療法研修会
 - ・ 3月1日 会場確保困難につき延期
 - 3-4. その他
 - ・ リハビリ協議会にて、ICTを利用した講習会を開催予定のこと。
- 概ね賛同を得た。
- ・ 高校生体験会（2日間・OT20名）→普及指導部
 - ・ まちなか（1日間・OT・10名）→普及指導部
 - ・ 健康と長寿の祭典（2日間・12名）→認知症委員会、地域アドバイザー委員会等、内容に応じて。
 - ・ 東海北陸学会（2日間・10名）→担当から除外する
 - 2-2. 令和2年度事業予算案、事業計画について
 - ・ 事業計画については、調整が終わり、概ね完成。
 - 2-3. 総会日程、内容について
 - ・ 6月14日日曜日で決定。
 - ・ コロナウィルスの拡大のため、開催ができない場合は、5月中に会員にホームページでお知らせ。
 - 2-4. 会員連絡用メーリングリスト作成について
 - ・ メーリングリストは、Googleのリストを使用して作成。使用は、災害時の連絡網や研修会のお知らせ。
 - ・ 1年程度掛けて、総会や各種研修会等で、
- 《検討事項》
- 1. 協会等事業について
 - ・ 特になし
 - 2. 各部会、委員会などより
 - 2-1. 普及指導部の事業案について
 - ・ 1つの部会に事業が偏重しているのではという意見あり、以下のように3役会で検討し、

- QRコードの配布や呼びかけを行う
- 将来的には、全会員とメールで連絡できるように体制構築。

2-5. きときと新聞発送について

- 取材をしにくい状況にあるため、長引くようであれば、内容の見直しや発刊数を減らすなどの対策。

令和2年度 第1回理事会

ZOOMによるWEB会議にて開催

日時：令和2年4月30日、5月1日 両日20時より

出席者：齋藤、島津、橋爪、吉波、藤井、森、渡邊、能登、大平、桐山、小倉、作田

欠席：松岡、丸本（回線の不具合のため）、吉村、松本

《報告事項》

- 当会における新型コロナウイルス対策について
 - 第3報を4月20日付けで発令し、ホームページ、役員メールにてお知らせ。
 - 厳守しながら、開催しなければならない事業方法を検討。
- 各種事業より
 - ロボット事業について
 - OT協会としての事業は終了したが、富山県協議会は、製品化に向けて継続中。
 - 4月15日 齋藤、中林先生・河原先生・高橋先生（富山大学）と富山県。500万円事業。
 - 4月27日 同上 とNEC（WEBにて）
 - 富山大学の御厚意で、富山県協議会は、作業療法士会が委員長。
 - 次回、5月下旬にNECと再度会議
- 各部会、委員会などより
 - 臨床実習指導者講習会
 - 6月6日、7日、13日、14日で理学療法士、作業療法士通じて、全国初のWEB開催を計画。
 - 梶委員長と青池の先生方中心に計画。

《検討事項》

- 県士会事業について
 - 総会
 - 通常の形での総会は、新型コロナウイルス拡大防止のため行わない（行えない）。
 - 定款上、総会は6月中には開催しなければならず、WEB中継や委任状を募って開催。
 - 上記理由のため、6月下旬の開催日程が望ましい。
 - 議長は塚田氏に依頼し、その他議事録署名人等は、5月の理事会までに候補者選出。
- 東海北陸ブロック士会長会議（4月26日WEBにて開催）
 - 2020年度東海北陸学会
 - 東海北陸リーダー研修会
 - 議事録は理事、監事、東海北陸士会長に配布。

- 今年度の東海北陸学会、リーダー研修会は、開催、準備ともに困難との判断。
- 共に1年延期。

3. 当会におけるWEBを用いた会議および研修会などの準備、開始について

- 現在の状況下において、対面での研修会や会議開催が困難。
- 総会や研修会、部会等の会議でのWEBの導入を進める。

4. 今年度事業の見直しについて

- WEBを導入した場合、可能な研修会や会議から開始すべき。
- 協会指定の研修会（現職者研修会等）は、受講要件等を協会にも確認。

賛助会員名簿

（順不同）

会 員 名（代表者）	住 所
学校法人金城学園 金城大学 医療健康学部 （学長 前島 伸一郎）	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200 TEL 076-276-4400
医療法人社団いずみ会 温泉リハビリテーション いま泉病院 （理事長 大西 仙泰）	〒939-8075 富山市今泉220 TEL 076-425-1166
富山リハビリテーション 医療福祉大学校 （校長 青池 浩生）	〒930-0083 富山市総曲輪4丁目4番5号 TEL 076-491-1177
株式会社 ウィル （代表取締役 黒田 勉）	〒939-0311 射水市黒河3075 TEL 0766-56-7099
株式会社 富山県義肢製作所 富山県補聴器センター （代表取締役 森田 忠浩）	〒930-0042 富山市泉町1丁目2-16 TEL 076-425-4279

編集後記

今年初めから続く新型コロナウイルス感染症によって仕事に限らず私生活まで常に気を張って過ごす日々が続いています。

この編集後記を書いている5月中旬時点では一部の地域を除き緊急事態宣言は解除されていますが、まだまだ予断を許さない状態で、会員各位の皆様も対応に追われる日々を過ごしておられることと思います。本来であれば今年度は富山で東海北陸作業療法学会が開催される予定も延期となってしまいましたが、来年無事に開催するため一人ひとりとして一層気を引き締めて行動をしていかなければと思っています。

（C.K）